

学納金について

名古屋外国語大学

本学は、1期と2期の2回に分けて学納金を徴収させていただいていますが、それぞれの費用の性格と用途について、以下に説明いたします。

本学の学費は、授業料、教育充実費、演習費で構成されています。

【授業料】

授業料は、学生の皆さまがカリキュラムに沿って授業を履修し、卒業に必要な単位（124単位）を修得して学位を取得し卒業するまでの、在学期間全体に必要な経費を4年間で分割して納めていただくよう設定されています。

授業料は、主として授業の実施などカリキュラムを継続的、安定的に運営するための教育経費に充てられています。

今年度は、コロナ禍によりオンライン授業を実施していますが、このことについては、①新型コロナウイルスから学生を守る、大学が感染症の拡大拠点にならない、②教育の質は落とさない、ということを経営の基本的考え方として導入したものです。

導入当初は、教員側にも学生側にも混乱があったことは事実ですが、現段階では、概ね良好な実施状況となっています。本学では、折に触れ、学生や教員へのモニタリングやアンケート調査を行い、課題の把握と改善に努めています。多くの大学でオンライン授業が行われていますが、オンデマンド型（録画・録音された授業を視聴）が多いことに比して、本学のオンライン授業は、特に、語学授業を中心に授業時間割に即した同時双方向型を採用していますので、教員と学生とのリアルタイムでのやり取りが可能となっています。

【教育充実費】

教育充実費は、キャンパスの施設利用料としてではなく、在学期間中、恒常的で良好な学習環境を整備・更新・維持するための費用として、4年間で分割して納付していただいています。

具体的には、キャンパス施設設備の整備・更新（校舎の新築・増築・改修、教室の什器類等）、実習用機器の整備・更新（パソコンやOA機器、無線LAN等のネットワーク環境等）、図書館の蔵書（図書、新聞雑誌、電子ジャーナル、視聴覚資料）の購入費、その他キャンパスの維持管理にかかる費用（光熱水費、営繕費、保守・メンテナンス費等）に充てています。オンライン授業を行うためのシステムや設備の導入にも費用は発生しています。

なお、図書館では、これまで学内からしかアクセスできなかったデータベースについて、自宅からアクセスできるようにしたことに伴い、学習活動に欠かせない重要な資料が自宅にいながらにして大量に検索可能という環境になっています。

現在は、一時的にキャンパスへの入構ができない状況が続いていますが、学生の皆さまが、いつキャンパスに戻ってきても大丈夫なように、施設設備の更新・維持をはじめ、受け入れ態勢を常に整えています。本学が開学以来、卒業生と在学生の皆さまの蓄積で築かれた学習環境は、将来の入学生のためにも維持していかなければならないことも重ねてご理解ください。

【演習費】

演習費は、情報関連科目群の演習補助、語学研修セミナー、ゼミ演習（合宿）及び語学資格支援（講座・検定料）の補助等、学習演習に必要な経費に充てています。

次に、委託徴収している会費（学生会費、後援会費）について説明いたします。

【学生会費】

学生会費は、その年度に行われる大学祭などの課外活動やイベント、学生の自主的活動のための助成費として還元されています。今年度1期は、コロナ禍により大学側から課外活動の自粛を要請しており、予定されている活動の大半が中止を余儀なくされていますので、年会費を半額とさせていただきます。

【後援会費】

後援会は、保護者・保証人の皆さまによって組織されています。後援会の会費は、学生の諸行事、国際交流活動、就職活動、学生保険、福利厚生など、学生生活を支援するための費用に充てられています。